

## 6 京田辺市史の文書調査

東 昇

### 1. 京田辺市史編さん事業

京田辺市においては、2014年度から歴史史料調査、2017年度から市史編さん事業を行っている。京田辺市との覚書により、文学部歴史学科が協力し、多くの歴史学科教員および学生・院生が参加し各種調査等を進めている。

2020年度は、文化情報学ゼミの教員・学生が市史編さん事業の調査助手として活動した。その活動内容としては、近世・近代文書の撮影や文書整理、近世史執筆内容検討会などが挙げられる。調査参加者は、東昇（教員）、竹中友里代（特任講師）、山田洋一（特任講師）、窪田竜也（4回生）、長谷川巴南（3回生）である。

### 2. 近世史執筆内容検討会

本年度は、コロナ流行により室内・オンライン中心の調査・研究会となった。中世・近世部会の部会員・市史編さん室職員が調査・研究報告を行う近世史執筆内容検討会は、2019年11月から実施され、すでに5回開催されている。これまでに、以下のように各文書・現地調査で判明した成果を報告した。

東昇「宮ノ口村木元家の祝儀、誕生祝」

竹中友里代「大住小田家文書調査中間報告」

山田洋一「大住村（郷）の領主・領地・領民等」

松本勇介（市史編さん室）「山本村藤井家文書から」

中川博勝（中世・近世部会員）「松井村文書について」

竹中友里代「曇華院領大住村の京都火災救援活動について」

新谷和之（中世・近世部会員）「京田辺市域の中世城館跡調査」

中川博勝「京田辺市域の「ええじゃないか」」

2020年11月17日には、東が『田辺町近世近代資料集』の近世資料について報告した。まず1987年に刊行された『田辺町近世近代資料集』の編纂経緯をまとめ、つぎに収録された近世史料（慶長5～明治5年）計221件の分類や地域、内容の特徴を分析した。そのほか、椿井文書と市域文書の概要をまとめ、今後の資料編、本文編編纂の進め方について検討した。

また現地では、旧高木村西尾家文書（個人蔵）の写真データの整理及び同文書の目録作成と、旧山本村川井家文書（京田辺市所蔵）の撮影及び同文書の写真データの整理を行った。